

◆本の紹介◆

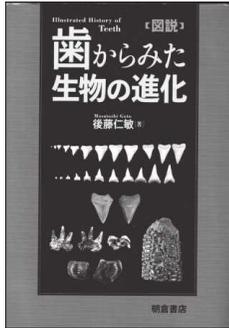
『歯からみた生物の進化』

後藤仁敏著

2024年10月1日発行，233頁，

定価6,380円（本体5,800円＋税），朝倉書店，

ISBN978-4-254-17190-7 C3045



本書は，化石の研究において重要な試料である歯を基に，生物の進化史を発生学，組織学，比較解剖学，古生物学，人類学の広範囲の学問領域から解説している本である。著者の長年の歯の研究（特にサメ類の研究）で得た所見や見解を中心にしながら，高校生や大学生に興味をそそるような話題（コラム）や多彩なカラー写真や図を交えて，書かれていて，図説として便利である。また，古生物学を勉強するうえでも役に立つ本である。歯からみた生物の進化過程を述べた本邦の類書はなく，個性的であり，大変価値のある本と思

われる。

本書は，第1章「歯の起源—歯はサメのウロコから由来した」，第2章「サメの歯—“ジョーズ”の歯の原始性と特殊性」，第3章「サカナ（硬骨魚類）の歯—歯の多様性の実験台」，第4章「両生類の歯から爬虫類の歯へ—歯の上陸史」，第5章「爬虫類の歯から哺乳類の歯へ—捕食から咀嚼へ」，第6章「食虫類の歯から霊長類の歯へ—虫食から果実食へ」，第7章「人類の歯の進化と退化—猿人から新人まで」，第8章「人類の歯の未来—現代人から未来人へ」の構成からなる。巻末には，参考文献があり，これから歯の研究をする学生や大学院生にとって有意義である。

第一章や第8章は，著者の研究から導き出された歯の進化や退化の進化史の考え方が書かれて，興味深い。また，「人類の歯の未来：現代人から未来人へ」では，著者が歯科医師や歯科衛生士を育成している職場での研究から導き出された歯の総数が減少しており，歯と顎骨は退化している。歯と顎の健康を守ることが人類の豊かな食生活と生命力を維持できるとの提言は重要と思われる。ただ，欲を言えば，第1章において，脊椎動物の歯や骨を構成するアパタイト結晶の硬組織の起源についても著者の考えを述べてほしかった。

本書にあるように，高校生や大学生が本書を読んで，歯の研究を志すようになればと願う次第である。歯の進化や脊椎動物の進化に興味を持つ会員に本書を推薦する。

（三島弘幸）